レッスンガイド

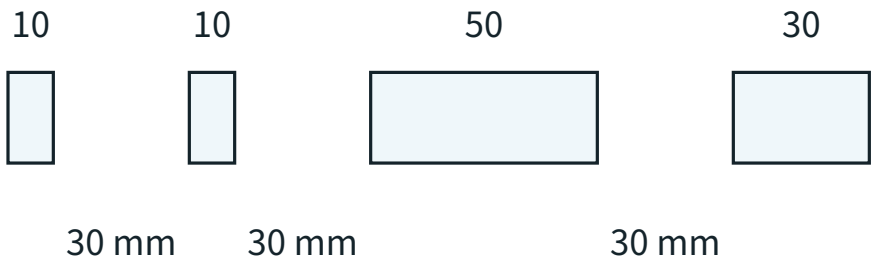
オブジェクトを均等に配置する

エッジ間の間隔を均等にするか、中心間隔を均等にするかを選び、結果が異なる理由を理解します。

このガイドはAIで翻訳されています。重要な手順は英語の原文と照合してください。

ソフトウェア練習

レーザーは必要ありません。付属のネイティブファイルにはマシンプロファイルがなく、操作の出力（Output）はオフです。保存された設定は素材用レシピではありません。



水平方向の解答。上は幅（ミリメートル）、下はエッジ間隔です。アプリのスクリーンショットではなく、図解です。

1. **distribute-start.lzrproj**を開きます。Macでは**Cmd + A**、Windows/Linuxでは**Ctrl + A**を押して、4つの長方形をすべて選択します。

2. **配置 > 配分 > 水平方向に間隔を空けて配分（Arrange > Distribute > Distribute H-Spaced）**を選択します。Hは水平を意味します。

3. 三つの間隔を確認します。各間隔は**30 mm**です。外側の長方形は固定されたままで、図形のサイズも維持されます。

4. 同じメニューの**水平方向に中央揃えで配分（Distribute H-Centered）**を試します。中心は等間隔になりますが、エッジ間隔は異なります。元の均等な間隔に戻すには、元に戻します。

distribute-complete.lzrprojと比較します。プロパティの「配分（Distribute）」ボタンは「中央揃え（Centered）」を使います。均等なエッジ間隔には、「配置（Arrange）」メニューの「間隔（Spaced）」オプションを使います。

自主練習

自主練習

distribute-practice-start.lzrprojを開きます。この四つの長方形は垂直方向に並んでいます。四つすべてを選択し、**配置 > 配分 > 垂直方向に間隔を空けて配分（Arrange > Distribute > Distribute V-Spaced）**を選択します。

□ 少なくとも三つの、個別でロックされていないオブジェクトを使用します。グループは一つのオブジェクトとして数えます。

□ 外側の長方形を固定したまま、各長方形の寸法を維持します。

□ 三つの30 mm間隔を目指します。**distribute-practice-check.lzrproj**と比較する前に、自分用のコピーを保存します。

エッジ間の間隔が均等になるオプションはどれですか？

中心間隔が均等になるオプションはどれですか？

これらの長方形では、なぜそれらのオプションの結果が異なるのですか？

練習用の長方形はすべて幅20 mmで、高さは10、20、30、10 mmです。

解説付き解答

解説付き解答

間隔指定（Spaced）: 均等なクリアランス
水平方向の例では、全体の幅は190 mmです。幅の合計は100 mmなので、三つの間隔に90 mmが残り、各30 mmになります。

中央揃え（Centered）: 均等な中心間隔
水平方向の中心間隔は約56.67 mmです。幅が異なるため、エッジ間隔は約46.67 mm、26.67 mm、16.67 mmになります。

垂直方向の練習: 三つの30 mm間隔
全体の範囲は160 mmで、高さの合計は70 mmです。残りの90 mmによって、ここでも三つの均等な間隔になります。

distribute-start.lzrproj
不均等な水平方向のデモ用スターター。

distribute-complete.lzrproj
水平方向の解答。左端のX座標は80、120、160、240 mmです。

distribute-practice-start.lzrproj
不均等な垂直方向の練習用スターター。

distribute-practice-check.lzrproj
垂直方向の解答。同じサイズで、エッジ間隔は均等な30 mmです。

Beam Bench 0.2.37で示したインターフェースに一致します。後のバージョンではパネルのレイアウトが異なる場合があります。